

子ども・若者の意見反映 の取り組み（子ども部）

令和8年7月8日 日野市子ども部

なぜ意見を聴き、反映することが大事なのか（意見反映の意義）

- 本当にみんなの役に立つ、意味のある計画やサービスができる
- 「自分の声で社会は変えられる」という自信がつき、未来のリーダーが育つ

▶ 意見反映の意義

- こどもや若者の状況やニーズをよりの的確に踏まえることができ、施策がより実効性のあるものになる。
 - こどもや若者にとって、自らの意見が十分に聴かれ、自らによって社会に何らかの影響を与える、変化をもたらす経験は、自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めることにつながる。
- ひいては、民主主義の担い手の育成に資する。

【出典】こども・若者の意見の政策反映に 向けたガイドライン（こども家庭庁）

意見表明や反映についてのこども・若者の声



「何でもいいよ」、「大丈夫」という声かけで安心感を与えてほしい。（高校生世代）

大人にもっと話を聴いてほしい（小学生）



事前にもらった資料がわかりやすくて思ってたよりイラストとかもあって、少し緊張がほぐれました（中学生）



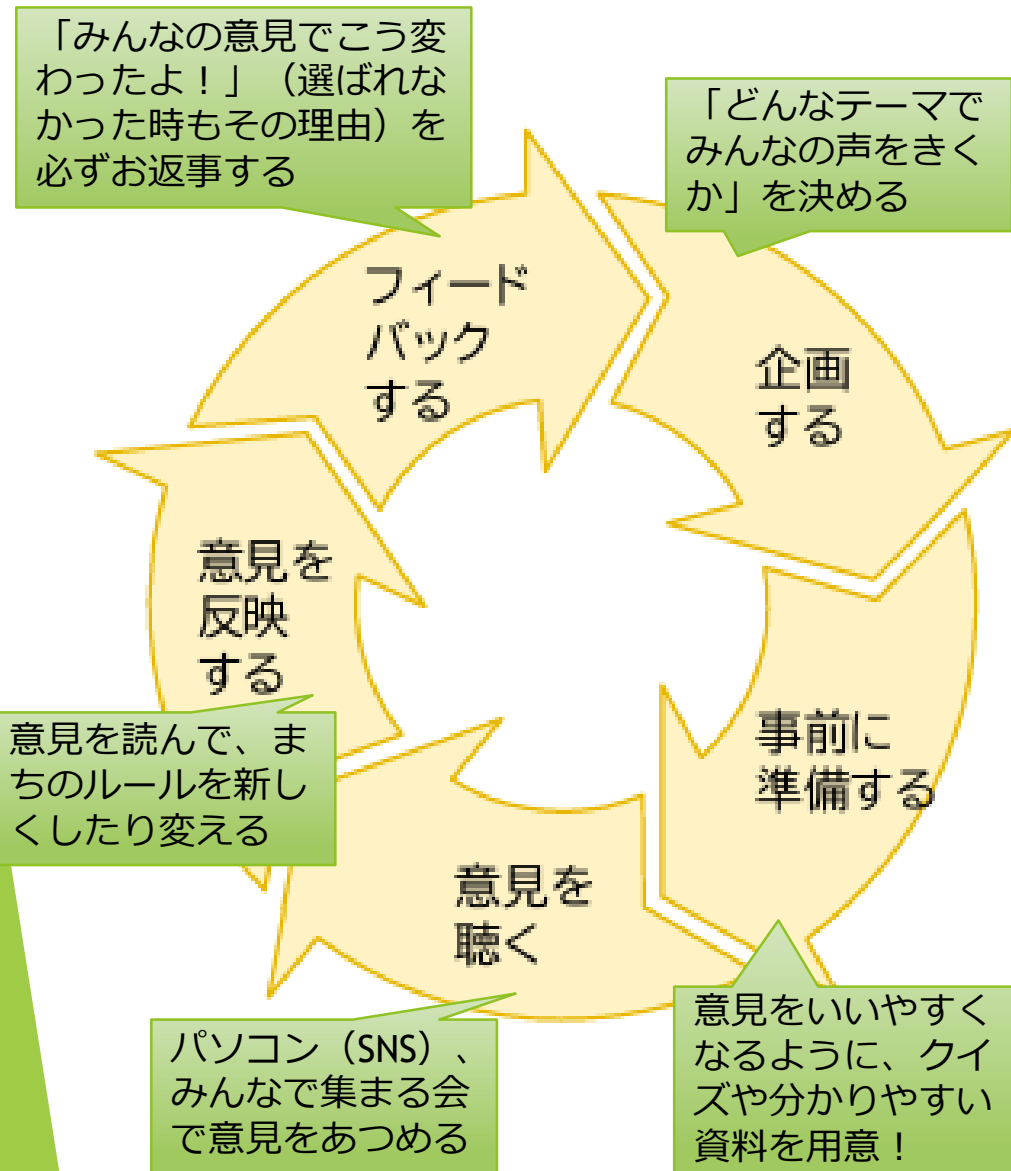
余裕がなくて来られない本当に困っている人の声も聞いてほしい（小中学生）



意見を聞くだけで終わるのではなく、ちゃんと改善されてほしい（小中学生）

意見反映プロセスの全体像

1回きりのイベントで終わらず、「時計の針」のようにずっと回り続け、どんどん良くなっていく仕組み



- 企画
 - 意見を聴く対象を検討する
 - テーマを設定する
 - 安心・安全を確保する
 - 実施体制を作る
- 事前準備
 - 行政職員の準備をする
 - こども・若者の意見表明の準備をサポートする
- 意見を聴く
 - 聴く側の姿勢や体制を整え、意見を伝えやすい工夫や配慮を行う
 - 意見を表明する選択肢を用意する
 - 振り返りをする
- 反映
 - 聴いた意見を受け止めどう反映するか検討する
- フィードバック
 - 聴いた意見がどのように扱われたのか説明する

【出典】こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン（こども家庭庁）に日野市子ども部が吹き出し部を追記

全ての職員を対象に、「子どもの権利」や「子ども・若者の意見を聴くこと」について研修

▶ 研修内容

- ①研修用パワポ資料での学習
- ②啓発動画（子ども向け）の視聴
- ③アンケートへの回答

市役所の各部署で子どもの意見を聴く場合、児童館がサポート！

▶ 実施期間

・令和7年6月9日～7月7日

日野市子ども条例研修



こども基本法・こども大綱がもたらした変化

子ども・若者が政策の「客体」から
「主体」に転換していくことになる



子ども・若者の
声を聴く社会づくり

子ども・若者の
主体的な活動の促進

意見表明

社会参画

この二つは両輪

子ども・若者のための大切な事業の進み具合を進行管理（進みぐあいのチェック） 意見反映の状況もあわせて確認・改善！

ひのっ子若者みらいプラン（第4章 施策の展開） 主な取り組み135事業 令和7年度の

基本目標Ⅰ ライフステージを通じて切れ目なく一人ひとりを大切にする支援

方針（1） 妊娠前・出産期からの切れ目ない支援

① 相談窓口機能の充実・専門職を軸とした支援機関同士の連携の推進

No.	事業名	主担当課	区 分 （前計画との関連） ※「新規」「拡充」は 令和5年度以降の 実施・拡充事業	事業内容
1	子どもなんでも相談	子ども家庭支援センター	新規	■子どもや子育て中の世帯が抱える課題に対し、情報提供や助言、必要な関係機関につなぐ等の支援を行う。また、市立小中学校の学習者用端末に相談の入口を設け、相談しやすい仕組み作りを行い、子どもからのSOSを見逃さない体制づくりを構築する。 ■地域の子育て相談機関からの相談も受け、子育て相談機関のネットワークの構築を図る。

こども基本法は、国や地方自治体が、子どもたちのための政策（こども施策）を作ったり、実行したり、その効果を調べたりするときに、子どもたち自身や若い人たち、そして子育てをしている保護者などの意見を聞いて、それを政策に反映させるための仕組みや方法を用意しなければならない、と定めています。

子ども・若者・保護者などの当事者、または当事者と事業を繋ぐ代弁者足り得る者の声を聴く（反映させる）取り組みについて

実施状況

取り組みの手法、時期、取り組みによる効果、フィードバックの方法等、取り組み内容について
※Cと回答した場合は検討中の内容
※Dと回答した場合は実施しない・できない理由

A

■子どもから相談を受けるに際して、電話や来所相談だけでなく、日野市立小中学校の児童・生徒が活用している学習者用端末（クロームブック）からも相談できる体制を敷き、より相談しやすい環境を整えている。

令和6年度 全国の市町村における意見反映の現状

64.8% 実施自治体率

回答した1,714市区町村のうち1,111団体が「直接意見を聴取する取組」を実施しています。

-  **こども計画策定との連動:** 施策の最上位計画である「自治体こども計画」の策定過程での意見聴取が最も活発です。
-  **多様な対象への配慮:** 341自治体が障がい児、不登校児、ヤングケアラー等、「声を上げにくい状況」にある子への配慮を実施。

-  **デジタル・非対面手法の普及:** 対面ワークショップだけでなく、SNSや匿名フォーム等を活用し、参加の心理的ハードルを下げています。
-  **具体的な反映実績:** 居場所づくりや公園遊具の選定、まちづくり計画の変更など、生活に身近な領域での反映事例が数多く報告されています。
-  **こども家庭庁の支援:** ガイドラインの提示や伴走支援により、義務化（こども基本法第11条）を契機とした取り組みが全国で本格化しています。

【出典】 こども・若者の意見反映に関する取り組み状況に関する調査報告書（令和6年度公表）（こども家庭庁）

実効性のある意見反映に向けた課題



「双方向」対話の不足

多くの自治体が一度限りのアンケートに頼っており、継続的にこどもと対話する「双方向の仕組み」を構築できているのは全体の約2割強にとどまっています。



専門人材・予算の格差

本音を引き出すファシリテーション能力やノウハウ、それらを支える予算確保が、自治体規模によって大きく異なり、支援格差を生んでいます。



フィードバックの徹底

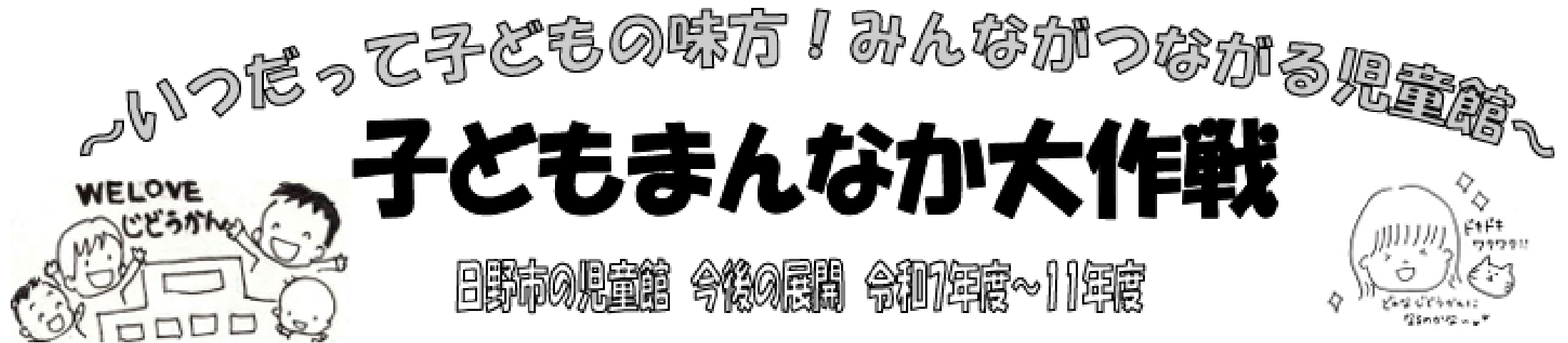
意見を聴いた後の結果を、こどもに分かりやすく返す仕組みが未確立です。「自分の声の変化に繋がった」という効力感を育む設計が不可欠です。

 **今後の方向性：アンケートによる「収集」から、日常の対話を通じた「共創」への質的転換**

【出典】こども・若者の意見反映に関する取り組み状況に関する調査報告書（令和6年度公表）（こども家庭庁）

日野市児童館

「子どもの声を聴く取り組み」



♥ なぜ児童館は「子どもの声」を聴くの？

日野市の児童館が「いつだって子どもの味方！」であるための、3つの約束。



権利（けんり）として

「こども基本法」により、自分の生活に関わることに意見を言うのは、みんなの正当な権利です。大人はその声を聴く義務があります。



味方（アドボケイト）

児童館の職員はみんなの代弁者。親でも先生でもない「ななめの関係」だからこそ、みんなの本音を社会へ届ける味方になります。



自分たちの場所にする

意見が反映されることで「ここは自分たちの場所だ」という実感が生まれます。その安心感が、みんなの生きる力に繋がります。

中高生の声をカタチにする5年間

インタビューで聴いた「本音」

- ✓ Wi-Fi・コンセントが必須！
- ✓ 落ち着けるソファやクッション
- ✓ 開館時間を19時までにしてほしい
- ✓ 自販機や音楽スタジオがほしい
- ✓ 小学生だけの場所に見えて入りにくい

アクションプランの重点項目

- ✓ センター館（まんがんじ）始動：
中高生世代の拠点を本格アップデートします。
- ✓ ヨリドコロ機能の強化：
悩みや将来のことを「信頼できる大人」にいつでも話せる環境をつくれます。
- ✓ 「やりたい」を形にする：
イベント企画などの自主活動を職員が全力でバックアップします。

♥ 児童館の取り組み事例

日常の関わり（ロビーワーク）



職員が日常的にこどもたちと関わり、つぶやきや本音を丁寧に聞き出します。



まずは「安心して話せる」信頼関係の構築を最優先にしています。



希望だけでなく、日々の困りごとや小さな不満も大切な声として受け止めます。

リクエストボックス

みんなの前で発言するのが苦手な子でも、匿名や手書きで自由にアイデアを投稿できるポストを設置しています。



職員からの返答を館内に掲示。



「声が届く」実感により、リクエストが具体的・現実的に。

自分たちの場所を自分たちで創る



子ども実行委員会

イベントの企画・運営を子どもたちが主体となって実施。都度メンバーを募集し、多様な子が参加できる仕組みにしています。



児童館会議

おもちゃの利用時間や部屋の使い方など、館内のルールについて子どもたちが集まって話し合う場を設けています。



運営協議会への参加

地域の方々との会議に利用者代表として参加。事前に小中高生の意見を聴いた学生世代が参加することもあります。

10館それぞれの特色を活かした取り組みと実現したリクエスト

児童館別の主な事例（あさひがおか～まんがんじ）

児童館	主な取り組み	実現した企画・備品
あさひがおか	ロビーワーク、実行委員	サッカー大会、カードゲーム、卓球ラケット
さかえまち	意見箱(小中学校にも設置)	マンカラ大会、プラズマカー、怪獣8号、洋式トイレ
ひらやま	リクエスト付箋貼り	ゲームデイ、クリスマス会、マンガ、ミニバドミントン
みさわ	シール貼りによる意見表明	アスレチックランドゲーム、トランポリン
まんがんじ	センター館プロジェクト	卓球・ドッジボール大会、写し紙

【出典】令和7年度（2025年度）日野市児童館・学童クラブ事業報告書（日野市）

10館それぞれの特色を活かした取り組みと実現したリクエスト

児童館別の主な事例（ひの～しんめい）

児童館	主な取り組み	実現した企画・備品
ひの	ハイキング行先投票	一輪車、ルービックキューブ、春フェス(中高生ライブ)
もぐさだい	日常や活動の中で聴取	男子トイレの変更、箱積み木、蹴っていい布ボール
たまだいら	スポーツ大会企画	中学3年生タイム、映画会、スポーツ・トレーニング用具
みなみだいら	ぶらねっとMT(会議)	中高生遠足、スライムづくり、パズル、色鉛筆
しんめい	意見箱返答スペース	スイングカー、マンカラ、リクエスト漫画、床清掃

【出典】令和7年度（2025年度）日野市児童館・学童クラブ事業報告書（日野市）

「小さな声」を大切にする工夫



表現方法の多様化: 絵、シール、スタンプなど言葉以外の方法も活用。



アウトリーチ: 来館できない子の声を聴くため、児童館の「外」へ。



デジタルの活用: SNSや匿名フォームを用いたアクセスのしやすさ。

大切にしているマインドセット



「小さな声」を大切に する工夫



表現方法の多様化: 絵、シール、
スタンプなど言葉以外の方法も
活用。



アウトリーチ: 来館できない子
の声を聴くため、児童館の
「外」へ。



デジタルの活用: SNSや匿名
フォームを用いたアクセスのし
やすさ。



フィードバックの徹底

「なぜ採用されたのか」、
または「なぜ難しいのか（
予算・安全面など）」を、
こどもに分かりやすい言葉
で必ず伝えます。「聴くだ
け」で終わらせません。



大人の解釈を押し付け ない

言葉にできない声を汲み取
ろうとするとき、大人が「
きっこうだろう」と決め
つけない。こどもの主体性
を尊重し、じっくりと向き
合います。

ご清聴ありがとうございました



地域とともに、子どもたちの声を形にしていきます。

日野市児童館

中高生世代スペースにおける 子どもの意見表明の取組

日野市子ども家庭支援センター

(令和6年5月27日(月)オープン) 子ども包括支援センター(愛称：みらいく)



所在：日野市神明一丁目13番地の2

- ・市役所本庁舎隣
- ・実践女子学園の神明校地の土地の一部を実践女子学園から無償で貸与

構造：鉄骨造

規模：地上3階建て

- 1階 子育て課・保育課
- 2階 子ども家庭支援センター・子どもなんでも相談
- 3階 子育てひろば・中高生世代スペース

建築面積：862.24㎡

延床面積：2296.94㎡

環境配慮：太陽光設備、屋上緑化、多摩産材

福祉避難所に指定

子ども包括支援センターとは

H28年児童福祉法・母子保健法改正（H29年施行）

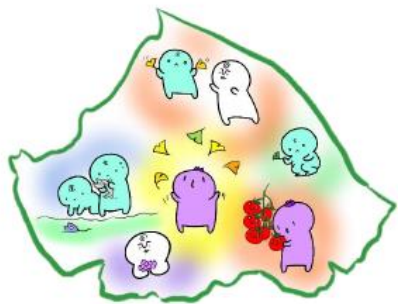
母子保健分野と子ども家庭分野の連携を強化し、切れ目ない支援を行うため、**同一の
主担当機関が2つの機能を一体的に担う体制整備が望ましい。**（H31年関係閣僚会議、
厚労省通知等）

R4年児童福祉法改正（R6年施行）

子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充として、**市区町村
は、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもの包括的な相談支援等を行うこども家庭セン
ターの設置に努める。**

基本方針 概要

(仮称)子ども包括支援センター 基本計画



令和2（2020年）年8月 日野市

「すべての子どもの健やかな成長を切れ目なく支援する
子ども・家庭・地域の子育て機能の総合支援拠点」

基本施策

- 1 相談を支援につなげる
「子どもなんでも相談」
- 2 虐待ゼロへ向けて
「虐待の早期発見、早期対応の体制構築」
- 3 支援を広げるSSW
「SSWがエール、子ども家庭支援センターの併任辞令」
- 4 **支援を継続する**
「中高生世代の支援（居場所づくり）」
- 5 支え合いの地域づくり
「子育てひろばの新設」

(令和6年6月24日オープン) 中高生世代スペース概要

【目的】 中高生世代が安心して過ごすことができる居場所支援、居場所の提供を通じた相談支援、学習支援、親に対する養育支援等を行うことにより、不登校や引きこもりなど、様々な課題や困難を抱える中高生世代が将来にわたって幸福な生活を送ることができるよう支援すること。

【運営】 委託事業者

【対象者】 日野市在住・在勤・在学のおおむね12歳～18歳までの中高生世代
(高校または高校に準ずる施設に所属の場合18歳以降も利用可能)

【利用時間】 月・火・水・金 午前11時～午後8時
土・日 午前10時～午後5時

【休館日】 木曜日、国民の祝日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)

【利用料】 無料、ただしイベント等で実費負担あり

【情報発信】 市HP、毎月発行のお便り、インスタグラム等のSNS



1. 年間利用者数（令和6年度）

対象者	登録	利用者数	内 訳		
			①フリースペース	②個人スペース(窓際)	③自習スペース(多目的室)
中学生	188	1,406	1,678	379	123
高校生	125	755	334	580	290
その他	2	7	10	0	0
合計	315	2,168	2,022	959	413

2. 年間利用者数（令和7年度）

対象者	登録	利用者数	内 訳		
			①フリースペース	②個人スペース(窓際)	③自習スペース(多目的室)
中学生	266	2,608	3,440	460	226
高校生	117	1,118	958	548	283
その他	1	33	18	36	3
合計	384	3,759	4,416	1,044	512

3. 利用者の状況

平日の動向…学校終了後の利用が多い。
不登校の子どもや通信制高校の生徒は開所と同時に来館して閉館まで利用する子もいる。
土日の動向…イベントを楽しみに来館する子もあり、利用者が増加傾向にある。

4. 各事業の実施状況

学習支援事業（令和7年度）

利用者	人数
中学生	75
高校生	21
高校生世代	0
その他	1

ボランティア	人数
大学生	31
地域住民	0
その他	1

相談支援事業（令和7年度）

対象者	フリー スペース	自習室	電話	2階 相談室	その他	合計
中学生	12	1	0	1	0	14
高校生	24	0	0	0	0	24
その他	38	0	1	0	0	39

①②フリースペース&個人スペース(入口)



①個人スペース(窓際)



② フリースペース

28



③多目的室 一部を自習スペース使用

29



実施事業

【みらいくポスト】 利用者の意見、相談等拾い上げる

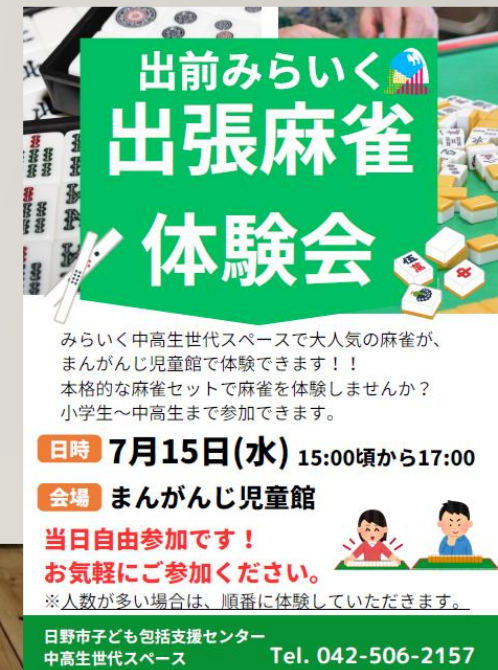
【出前みらいく】 地域の催し等へ中高生世代スペースでできる遊びを持ち込み、体験してもらいながら中高生世代の話を聴く

【企画委員会】 イベントの企画や運営を行う中高生団体、企画委員を立ち上げ、様々な意見を引き出していく

【親に対する支援事業】 保護者への電話相談や面談等をおこなう

【相談支援事業】 中高生世代の相談を受ける

【eスポチャレンジ】 eスポーツについて知り、参加者みんなで体感し楽しむ



**出前みらいく
出張麻雀
体験会**

みらいく中高生世代スペースで大人気の麻雀が、まんがんじ児童館で体験できます！！
本格的な麻雀セットで麻雀を体験しませんか？
小学生～中高生まで参加できます。

日時 7月15日(水) 15:00頃から17:00

会場 まんがんじ児童館

**当日自由参加です！
お気軽にご参加ください。**

※人数が多い場合は、順番に体験していただきます。

日野市子ども包括支援センター
中高生世代スペース Tel. 042-506-2157

実施事業

- 【ユースボランティア】 中高生世代を対象とした登録制のボランティア
- 【ユースカフェ】 お菓子と飲み物を提供し、リラックスした雰囲気の中で、職員は自然な会話を通じ、不安や悩みを汲み取る
- 【デコレーションプロジェクト】 中高生世代のアイデアや作品で施設内外の装飾をし、中高生世代スペースのPRをおこなう
- 【学習支援事業】 大学生ボランティアによるアドバイス等
- 【1日ひろば職員体験】 同階子育てひろばでの職業体験
- 【東京わかものヘルスサポート】 看護師等の専門家に相談できる機会提供
- 【プレコンセプションケア啓発事業】 産婦人科医による講演会やユースカフェ体験
- 【児童館巡回】 市内児童館を巡回し、中高生世代とかかわりを持つ

「先輩に聞いてみよう」
-学習支援事業-

みらいく中高生世代スペースでは、中高生世代の学習意欲向上を目的として、週に1回、大学生などのボランティアによる学習支援事業を行っています。ご自身の予定に合わせて、好きな時間にご参加ください。

実施日
毎週水曜日
17:00～19:00
※上記の時間内であれば参加時間は自由です。

対象
日野市在住、在学、在勤のおおむね12歳から18歳の中高生世代

定員
毎回3名程度

学習についての質問・アドバイス
進路についての悩み
受験内容について
学校生活について
などなど、
気楽にお話ししましょう！



日野市子ども包括支援センター 東京都日野市神明1丁目13番地の2
中高生世代スペース 子ども包括支援センターみらいく 3階 TEL.042-506-2157

中高生世代スペース実施までの経緯

【中学卒業後の支援検討委員会】

令和2年度より、中高生世代にかかわる関係機関と検討会を開催

【市内2つの児童館でのレイアウトを検討するワークショップ】

令和5年度中高生世代スペース内装を検討

【市内児童館、わかば教室、ほっともでのPRワークショップ】

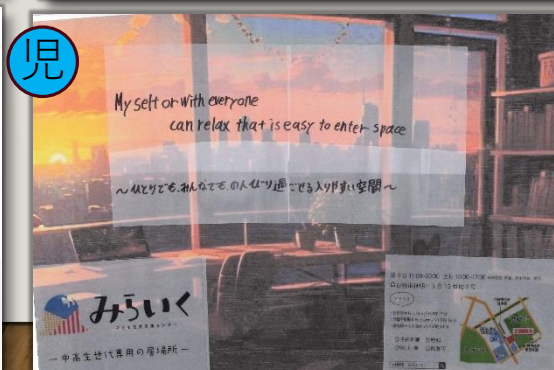
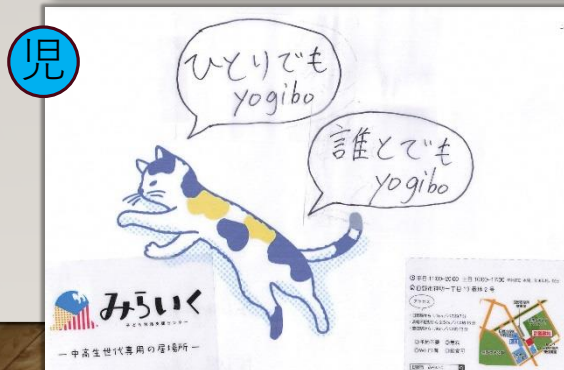
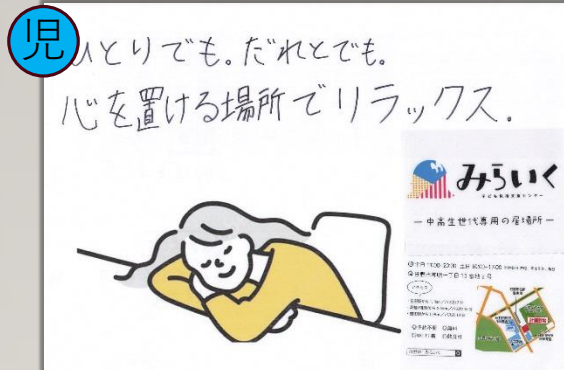
令和5年度中高生世代スペースをPRするためのグッズの作成



PR検討ワークショップ 成果物

33

だらだら／リラックス(ひとりでも／誰とでも)



中高生世代スペースの立ち上げにあたっては、児童館等を回り、どんな場所であってほしいか、具体的に検討しました。
オープン後も、利用者である中高生たちが主役となるよう、スタッフがサポートしています！

